

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つながろう！岩手

三陸復興

第72号

平成26年10月1日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

秋が始まり、岩手の季節の味覚が人々を楽しませ、紅葉に彩られる観光シーズンも近づく今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の明るい今を紹介します。

山田祭が完全復活！山田町の“復興の証”に！

山田町

山田町を代表する秋祭り「山田祭」が、9月13日（土）から3日間の日程で行われました。

最終日の9月15日（月）、大杉神社の例大祭では、神輿を担ぎ海を練り歩く「海上渡御」が4年ぶりに復活し、山田祭が完全復活となりました。



神輿をかついで海の中を進む男たち（写真提供：山田町観光協会）

海の神様を祭る大杉神社は、東日本大震災津波で被災し、その例大祭は一時中断されましたが8月に神輿の復元が完了。地元の熱意と全国からの多くの支援により「海上渡御」が復活を果たしました。

当日は、町内の男たちが、復元された神輿を担いで山田湾に到着すると、海に入って身を清め、大漁と海の安全を祈願し海を練り歩きました。また、岸壁には多くの人が集まり待望の神輿の復活に大きな歓声を上げていました。

山田八幡宮と大杉神社のふたつの神輿が揃った山田祭の完全復活は、山田町の“復興の証”となり、町民の大きな力となりました。



祭りを祝う曳舟（写真提供：山田町観光協会）

東北海洋生態系調査研究船『新青丸』が大槌港に初入港！

大槌町

最新鋭の海洋調査船『新青丸（しんせいまる）』が9月13日（土）、船籍を置く大槌港に初着岸し、翌9月14日（日）に一般公開されました。

『新青丸』は、（独）海洋研究開発機構（JAMSTEC）が所有する船で、全長66メートル、幅13メートル、総トン数1,629トン。定員は41名で、平成25年2月に山口県下関の造船所で110億円かけて建造されました。東日本大震災の津波・地震で、被災地沿岸の海洋生態系にどのような影響があったかを調査する「東北マリンサイエンス拠点形成事業」の一旦を担います。

平成25年10月にお披露目されていましたが、当時は大槌港の被災した岸壁が復旧していなかったため、着岸できませんでした。今回、岸壁の復旧が完了したことにより着岸が実現したものです。

無人探査機をはじめ、多種多様な観測機器と船内に研究室を装備する『新青丸』は、シップ・オブ・ザ・イヤー2013 特殊船舶部門賞を受賞しており、三陸沿岸の海洋調査研究での活躍が期待されます。



多くの人が一般公開に参加（写真提供：JAMSTEC）



一般公開された船内（写真提供：大槌町）



大槌港に初着岸した新青丸（写真提供：JAMSTEC）



「e!いわて（いわてつながり情報局）」は、復興に関連する岩手のニュースや情報を知ることのできるアプリです。

入手した情報は Twitter や Facebook に投稿しシェアすることができます。

以下の OS を搭載したスマートフォンでご利用いただけます。

・Android OS4.0以降、iOS6.0以降

詳しくは

いわてつながり情報局

検索



若者の意見求む！ 若者による意見交換会開催

盛岡市

9月19日（金）、岩手県公会堂会議室において、復興に取り組む20代～40代の男女9名が集まり、「沿岸地域における若者の定住に必要なこと」「今、復興の現場で求められていること」をテーマに、意見交換会が開催されました。これは、復興に若者・女性の幅広い意見を取り入れることを目的に開催しているもので、平成25年6月にスタートし、今回で3回目の開催です。

意見交換会では、「住む場所の情報や交流できる場所が必要」、「単年度ではなく長い期間での行政の支援が必要」などの意見が交わされ、同席した県の中村復興局長は、「皆さんのような若い方からどんどん提案していただき、一緒に課題を乗り越えていきたい」と話しました。

また、司会進行を務めた中野圭さん（大船渡出身・NPO法人いわて連携復興センター・NPO法人wiz代表理事）は、「行政にお願いするだけでなく、まずは自分たちが頑張らなくてはならない。その上で行政と一緒に取り組んでいける環境を作りたい。今後も定期的に意見交換を行っていききたい」と感想を述べました。



意見交換会に参加した若者たちと県職員



意見を発表する若者たち



意見交換会の様子

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第26回目は、煙山美帆さんを紹介いたします。

PROFILE

東京都墨田区出身。
平成23年4月から陸前高田市広田町にボランティアとして定期的に訪れ、平成24年8月に同町に移住。
現在、特定非営利法人SETの副代表理事として広田町のお母さんたちと共に「手づくり浜野菜事業（おすそわけ便）」のサービスを展開している。

広田町と首都圏を結ぶ活動を

煙山さんの活動は主にふたつです。
その一つ目の「チェンジメーカープログラム」は、主に都会の大学生たちが1週間程度広田町に来て、広田町の魅力や課題を発見し、地元の方たちと一緒に課題を解決する活動です。
二つ目は、広田町で作られる農産物を首都圏に紹介することで、広田町に人を集める「手づ

未来の さんりく びと

特定非営利法人 SET
副代表理事
煙山 美帆
(けむやま みほ) さん



煙山さんからのひと言：
女性の可「農」性を信じ、
追求し続ける！

くり浜野菜事業」。

岩手県の中でも温暖な気候の広田町では、年間を通して野菜を収穫できる環境にあるため、地域の農産物の紹介を通して首都圏と広田町を結んでいます。

「被災地支援のために広田町にいるというよりは、広田町が好きだからここにいます。」と語る煙山さんは、広田町を紹介することが復興につながると考えています。

広田町に住むことに誇りをもって

復興について煙山さんは、「3年半経ちましたが、まだまだハード面でも時間がかかると思います。取り戻せないものはたくさんありますが、自分たちが変わらなければ、誰かが何かをしてくれるわけでもない、と言う方も増えています。地元の方も、今までは田舎だからとか、都会の方がいいと思うことがあっても、自然と共に生きて行く広田町の魅力に誇りを持っていただきたいと思います。」と広田町への想いを語りました。

手づくり浜野菜 <http://www.hamayasai.com/>

浜野菜

検索

岩手県の被害状況

平成26年8月31日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,672名 行方不明者：1,132名
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 25,716棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

検索

皆様のご支援、ありがとうございます

平成26年8月31日現在

- ▶義援金受付状況 約181億5,958万円（89,806件）
- ▶寄付金受付状況 約195億7,121万円（6,922件）
- ▶いわての学び希望基金受付状況 約69億5,166万円（13,960件）

※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!!

<http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第72号 平成26年10月1日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

検索

編集・印刷：シナプス